

大阪市立大学【経済学部・経済学研究科】

日 時 平成24年7月20日(金) 16:00~17:30

場 所 全学共通教育棟2階 会議室

出席者 <新大学構想会議>

矢田委員(座長) 上山委員、尾崎委員、野村委員、吉川委員

<大阪市立大学>

経済学研究科 脇村孝平研究科長、長尾謙吉教授、中嶋哲也准教授

■大阪市立大学から資料に基づき概要を説明

(大阪市立大学)

最初に研究科の歴史についてですが、1928年に成立した大阪商科大学が私たちのアイデンティティだと思う。当時の関市長が、国立大学のコピーであってはならないというのは、まさに我々が常に意識してきたところである。戦後になり、1949年に市立大学として総合大学となったが、商科大学時代のものが二つに分かれ、商学部は実践的学問を中心とし、経済学部は理論的学問を中心とするというある種の棲み分けが、この時点であった。1953年に大学院を設置し、2001年には大学院の再編を行っている。それらを踏まえ理念を申し上げると、商科大学以来、大阪市、大阪市民への貢献が我々の使命であると思っている。そして、特に戦後は、自主性の尊重、自由・リベラルな学風が経済学部の気風となっている。さらに、他の国公立大学や私立大学とは異なった学風というのは、社会の中に埋め込まれた経済という捉え方をするのが我々の学部であると思っている。いわゆる実学的教育とは異なって、社会・経済を冷静、客観的かつ大局的に視る眼を養う教育、我々はプラクティカル・エコノミストの養成ということで概念化している。

基礎データについては、少人数教育を言ってきたが、教員一人当たりの学生数は、他の国公立より少し多い。ただし、私立大学よりはかなり少ないという位置である。そういう中でも他の国公立大学に負けない少人数教育を追求してきた。経済学部や商学部は、言うまでもなく経営的には効率的な学部といえる。卒業生の就職先は、大阪府内、近畿圏に6割ぐらいが就職しており、地域に貢献できていると考える。就職先としても業種がばらけており、バランスが良いと思う。偏差値で注意いただきたいのは、私学との比較では、あまり比較する意味が無いという点である。私学では、偏差値が意味をもつ入学者は全体の4割から5割になっており、あとはAO、指定校、附属系列といった推薦枠として偏差値が効いてこない学生が多い。そういう点からいうと、実質的な偏差値では市大経済学部の方が高いといえる。関西の国立大学の中では、序列化がはっきりとあり、4番目となっている。他大学と比較した分野別特徴として、全国の国公立大学の経済学部においては、ランキング10位から15位ぐらい。その中で、我々は多様な人材の確保をめざしており、特に数学重視による理系からの文転組の確保、1割ぐらいはいるのではないかと。後期日程の「高得点」と「ユニーク」は、1988年から始めており、大学入試センター試験のみを受けて高得点の者、一芸に秀でているものをとる「ユニーク」があり、全国でも先駆けて取り組んでおり、多様な人材を確保することを心掛けてきた。入試倍率は、2.9から3.7倍で推移し安定しており、今のところ少子化の影響は出ていない。

教育、人材養成の特徴として、プラクティカル・エコノミストの養成に力を入れてきて

いる。実学とどう違うのかというと、プラティカルとは実践的という意味であり、社会が直面する課題を的確に捉え、それを経済学の素養を生かして分析し、他者との協働により複眼的な構想力をもって立案しうる人材を指す。結局、自立的な調査・発信能力、豊かな協働力、複眼的な構想力、的確な判断力をもつ人材。今日の社会の中で求められている人材をいう。我々の希望としては、20年後に社会貢献できる人材、ある程度のポジションに立ってから、いっそう能力を発揮できる人材をめざしている。この教育プログラムは、実は、それ以前にずっとやってきた少人数教育の実践を進化させたものであり、2011年度に採択された文科省の大学G Pによってブラッシュアップしたものである。卒論を重視しており、上回生演習あたり学生数は10人以下に抑えて、丁寧に指導することを行ってきている。大学院では、前期博士課程はジェネラル・エコノミスト、後期博士課程はアドバンスト・エコノミストということで、ジェネラル・エコノミストとは、より一般性をもった、学問の理論的・原理的研究を深化させるという意味である。アドバンスト・エコノミストは、専門性をより高めたという意味である。大学院は、1955年からの伝統があるので、これまでに240名を超える専門的研究者を輩出している。なお、池尾愛子編『日本の経済学と経済学者：戦後の研究環境と政策形成』（日本経済評論社、1999年）では、出身大学院別の経済学者数が比較されているが、大阪市立大学大学院経済学研究科は、全国の上位10校の一角を占めてきた。また、1986年度から前期博士課程において社会人特別選抜制度を行っており、熟年大学院と称しており、50歳以上の方々にライフワークの研究として、自分が携わってきた仕事を何らかの形で研究としてまとめていただくということで、これまで100名を超える社会人が修士号を取得している。

次に、教育研究スタッフの特徴であるが、カリキュラムの特徴として、入門科目、基礎科目、基礎科目、応用科目と段階的・体系的に学習できるように設定されている。大阪大学や神戸大学と比べて特徴的なのは、基礎科目において近代経済学系列と政治経済学系列の両方を学生に勉強してもらうということで、少し違いがある点である。応用科目では、多様な科目群が提供されている。教員分野別を、大阪大学と神戸大学と比較すると、本学部はバランスがとれている。大阪大学は、国際経済や経済構造分野の教員が少なく、経済理論や経済史に中心がある。神戸大学は、国際経済や経済政策にたくさん教員がおり、特徴を出している。そういう意味でいくとバランスはよいのではないかと考える、ただし、それぞれの分野にユニーク、学際的なタイプの研究者が多くいるのが特徴であると考えられる。また、都市経済および都市社会問題に関する多くの専門研究者が存在する。具体的には、社会政策、労働経済、地方財政、都市産業、流通経済、都市社会問題などの専門家である。これらのスタッフは、行政との強い関わりをもって研究を進めている。本研究科のアプローチとしては、経済および経済学を社会との関係・つながりの中で把握する、そういう意味で総合性、学際性、社会とのつながりを意識する社会研究アプローチと言える、その一つの表れが、学部全体で取り組む共同研究として、格差問題に焦点を当てて研究を行っていることである。現在は、医学研究科の公衆衛生と組んで、健康格差の共同研究を進めている。医学研究科との繋がりとして、バイオエコノミクス研究会を実施し下地をつくってきた。

就職の動向は、我々は誇って良いのではと思っているが、商大以来の伝統と少人数教育の効果もあって、総じて就職力は高いのではないかと。入学時の偏差値に比して、就職状況

はよいと思われる。2005 年の読売ウィークリーの就職力ランキングでは、全国で 38 位であり、ある程度、実態を反映しているのではないかと考える。過去 5 年間の就職実績は、約 8 割が就職又は進学であり、公務員比率は 1 割強である。市大の他の文系学部との就職比較では、業種はバランスがとれているという特徴がある。就職力には、実は伝統がかなり大きく作用している。卒業生のバックアップが、経済学部の場合には大きい。商科大学以来の文系学部同窓会である有恒会に加えて、経済学部の同窓会である経有会があり、カリキュラムの講義に深く関与していただいている。キャリア形成ゼミと経有会講座。経有会講座は、8 年目に入っており、各界で活躍されている卒業生に講義をしていただいているが、学生にとっては非常によい社会との接点、気づきの機会となっている。

次に、産学連携との取組として、科研費獲得をあげているが、教員数が減ってきているなかで獲得件数をあげる努力をしているプロセスを示している。また、科研費以外の研究費を獲得するように努力したいと考えている。昨年度から府立大学と共同して地球規模課題対応国際科学技術協力に、一部のスタッフが取り組んでいる。官と学の連携として、様々な審議会委員として、行政と繋がりをもっている教員がたくさんいる。

次に、改革の取り組みとして、廃止された第 2 部にあった社会人特別選抜を、第 1 部に 5 名程度設けている。大学全体として大学院を再編する中で、それまでの 2 専攻を現代経済専攻 1 専攻に変更した。この時に通常の研究者を養成する一般コースに加えて、修士のみの修士専修を新設した。これは、公務員受験、教員免許取得や経済学の知識修得、企業への就職、留学生の受け皿としてつくった。また、それまでの大学院教育は、演習中心のものであったが、講義形式の基礎科目を設け、より組織的に教育することに改めた。

部局の特徴的取組と今後の展開ということで、学部の教育で人材養成に力を入れてきている点を申し上げたい。伝統として、少人数教育、丁寧な卒論指導、三商大学生討論会を続けてきており、それらを活かしながら新たな方策を加えたのが GP であった。少人数教育のカリキュラムを改変して、新しい評価方式を導入するということを GP で行った。GP がはじまる直前にベネッセが行った学生満足度調査において、学びへのコミットメント・満足度指数では、市大経済は非常に優れており、図書館の利用やゼミを含む授業で物事を多面的・総合的に判断することが求められるという点でも非常に高いパフォーマンスを示しているとあり、これらを高めるために GP をはじめたという経緯がある。これまで 3・4 年生が対象であったゼミを、基礎サイクルとして 1・2 年生の演習科目を強化して、2 サイクルの少人数教育という形態を導入した。特に、キャリア形成ゼミは、卒業生に協力を仰いで、課題発見・解決をグループワークで行っている。イノヴェーティブ・ワークショップは、フィールドワークを実施し、その中で問題発見・解決に取り組ませている。三商大学生討論会は、60 年以上の伝統があり、3 回生はこれを目標にゼミ活動に励んでいる。また、一部の学生は、韓国の全南国立大学、中国の吉林大学との国際シンポジウムに参加し、英語による討論を行うことをプログラムに取り入れている。

研究面での重点は、都市経済や都市社会問題の研究スタッフが多いことで、研究センターとしての機能を充実させる方策の一環として、さきほど言及した共同研究、「健康格差と都市の社会経済構造」に取り組むと同時に、今年度、博士課程リーディングプログラムとして、都市研究プラザが中心となって申請した包摂都市生成のためのグローバルリーダー養成という企画へ深く関与している。学部教育として、プラティカル・エコノミストの育

成をいっそう伸ばしていった、意欲のある学生の能力を伸ばすための教育プログラムを作
ることを検討中。また、カリキュラム検討委員会を立ち上げて、英語による教育をどのよ
うに増やしていくかを考えている。大学院教育では、正直申し上げて、定員を埋めるのに
苦労している状況でもあるので、再構築に向けて、カリキュラムの改革や、コア・コンピ
タンスをはっきりさせて、それに関わるような人材養成プランを作るべきではないかとい
うことを検討中である。説明は以上である。

■質疑応答

（新大学構想会議）

関西の他の国公立と比較してバランスがとれていると言うが、どのあたりがそう言える
か。経営学的なものが含まれているのか。

（大阪市立大学）

含んでいない。純粋に経済学のみによる比較である。カリキュラムの編成において、プ
ラティカル・エコノミストということを言っているのだが、講義において基礎的科目を教
えることができる教員をちゃんと配置していることである。その幹のところをちゃんと作
っておかないで、多様性などをいっても意味が無いので、経済理論や経済統計という科目
においても教員を配置しているという点でバランスが良いと言える。

（新大学構想会議）

教員の構成は、経済理論といっても中身は色々あるし、政策論といっても金融論的なも
のも入れているのだろうが中身は違いますよね。そういうことを含めると、これでは特色
が読み取れない。

（大阪市立大学）

いろんなところにまたがっている人を合わせて、都市経済、都市社会問題にかかわる教
員が多いということで特徴づけている。どこかに集中しているという意味で特徴があると
言っていない。

（新大学構想会議）

受験生から見て、商学部と比べた時の経済学部の特色は。

（大阪市立大学）

学問の性格として、経営学は企業が単位での研究だが、経済学部は、社会というか、も
っとマクロな部分が単位であるところではないか。そういう意味でディシプリンが違う。

（新大学構想会議）

受験生は、そのようなことを考えて選ぶよりは、就職が良いとか、理論よりは実践が良
いという感じで入ってくるのではないか。比較的近いという印象を持っているが。

（大阪市立大学）

確かに、経済学部はつぶしが効くという風に思っている受験生は多い。商学部には、はっきり目的意識をもって入ってくる学生が多いかもしれない。そういう点では、経済学部は漠然とした志望動機の学生が多いかもしれない。

（新大学構想会議）

受験生が市大の経済学部を選ぶ動機は何か。

（大阪市立大学）

正直申し上げて、関西の主要大学は総合大学化したので、経済学・経営学系は、受験生はセンター試験の持ち点に基づいて出願してくる。先ほど多様な人材と言ったけれど、前期試験では、本当にセンター試験の輪切りしか来ない。だから、後期で高得点や数学を重視してますよとか、センター試験も普通の文系は、社会2科目、理科1科目だが、うちは社会理科合わせて3科目でよいということをして、さらにユニークとで特徴を出している。前期頼りとなるとどうしても偏るので、多様な人材ということで入試戦略をとっている。

（新大学構想会議）

教えていただいたベネッセ教育総研による「学生満足度」調査の評価の結果も「読売ウィークリー」による530学部・研究科「就職力ランキング」も2005年のデータですが、その後の最新のデータはないのか。例えば、大学の中で卒業生にアンケートをとるとか、方法があると思うが。

（大阪市立大学）

大学アンケートは大学全体として行っているし、経済はグッドプラクティスを取ったので、それに基づいて卒業する学生にアンケートをとっているしかし、1年生時からグッドプラクティスにかかわっている学生が卒業しかけなので、実際新しい科目はどうだったのか、卒論指導はどうだったのかという形で、これから経済学部の中で改良を行う。

（新大学構想会議）

教員数の独法化前からの推移は。そして、その影響は。

（大阪市立大学）

法人化後まず1割減、そして2割減で、人数としては38名から28名になった。影響としては、やはり色々な面で教員の負担が増えた。グッドプラクティスをやっているときは、特任教員で大学院のオーバードクターとなっている人を雇用して、基礎的な科目で頑張ってもらって、その人たちは、そのあとそれを基に就職している。

（新大学構想会議）

常勤の教員の持っている平均的なコマ数は。

（大阪市立大学）

教授で、大学院を含まないで、学部ゼミをいれて前期・後期を足して大体10コマ程度。法人化前よりは2割ぐらいは増えている。

（新大学構想会議）

教員の人事であるが、基礎科目の先生が応用もするのか、応用科目の先生が基礎も教えているのか。教員の採り方は。

（大阪市立大学）

経済学部の特徴として、昔は応用科目しか主担がない、基礎科目が主という先生がいなかった。ようやくこの間から、基礎科目を主という先生を採り始めた。ミクロ経済学が1人いて、次にマクロを採りたいと考えている。今までは応用をやりながら、ミクロやマクロの基礎的な科目もやってくださいということできた。また、理学系の先生や異端的な方を採ってきたがあるので、基礎で理論に近いことをやっている人に基礎科目をやってもらう。兼ねれるような人を採るという発想をしている。

（新大学構想会議）

グルーピングされていないですね。

（大阪市立大学）

グルーピングは、理論とか経済政策論とか応用科目の主担科目というグルーピングはある。

（新大学構想会議）

歴史、国際、構造、政策と統計ですか。

（新大学構想会議）

科目はオーソドックスですが、教員は特殊な研究テーマの人を集めたのか。

（大阪市立大学）

ここが変わっているというのが一つの傾向と、他大学ではより狭い研究分野で集まっている傾向があるので、より目立っているのかと思う。

（新大学構想会議）

それは戦略的にそうしたのか。百貨店を止めて、特殊専門街にしようとする意図があったのか。

（大阪市立大学）

80年代のある時期からそういう、それほど戦略的であったわけではないが。

（新大学構想会議）

それは実学志向だったからか。

（大阪市立大学）

実学志向ではなかったと思う。一般性を持ったことを考えながらも、新しい研究をわりと早く採りいれるような形があったのではないかと考える。

（新大学構想会議）

分野志向なのか。

（大阪市立大学）

例えば、全国で初めてアジア経済史という科目を設けた。今でも、神戸大学、大阪大学、東京大学にもない。そういう種類の科目をたくさんつくってきた。

（新大学構想会議）

そういう傾向は昔からあったのか。

（大阪市立大学）

80年代ぐらいから。

（新大学構想会議）

それは何故ですか。

（大阪市立大学）

やはり差別化を意識していたのではないか。

（新大学構想会議）

経営と分かれたのはいつですか。

（大阪市立大学）

49年に大阪市立大学ができた時に分かれた。

（新大学構想会議）

今にして思うと、商学部と足していいぐらいのスケールに見えるが、分かれているメリットはあるのか。今再評価するとどうですか。学生の卒論を見ると、経営系も結構あるし、先生も両方教えられる人もいるようだが。

（大阪市立大学）

今まであまり意識せずに来ていたので、十分な見解を持っているわけではないが、経済学部は社会問題に関心がある伝統があり、今も一部の教員にはそれが続いている傾向があ

る。それが一つの特徴である。

（新大学構想会議）

応用系でつくっている場合、その人が原論を兼ねていると、原論も結構色んな分野があるので、原論が偏ってしまうことがあるのではないかと。そうすると、学生が3年生になって、例えば、金融論を学ぶ時に、本当はミクロ経済学を習っていないといけないのに、金融の先生は実は別の原論を教えていたという問題は起こりませんか。

（大阪市立大学）

担当者間でスタンダードやテキストを決めているので、偏ったことにはならないと思う。

（新大学構想会議）

そういう背景があって、ちゃんと原論を教えられる人を探るようになったのかなと憶測したので。アメリカでは、ベーシックなミクロ経済学があるが、日本はけっこう原論が分かれているから、原論をやっていますと言っても、けっこう違う。

（大阪市立大学）

マクロ経済学系、ミクロ経済学系、政治経済学系の3本柱でやっているが、20年前はそういう基礎科目が無かった。さすがに、そういうことでは駄目だとして、ちゃんとできたいです。

（新大学構想会議）

基礎教養が抜けているのと同じようなもので、経済学も基礎的な文化が無い学生が、そのまま経営なんかを学ぶという問題が、あちらこちらで起きている。

（新大学構想会議）

それは全国的な問題ですね。

（新大学構想会議）

少人数教育の状況は。

（大阪市立大学）

イノベティブワークショップにキャリア形成ゼミ等、1人の学生に4人の先生が付いている場合もある。それが複眼的構想力に結びつくのではないかと期待感をこめた編成方針である。基礎演習は、最近は教員間である程度共通事項を決めている。

（新大学構想会議）

教員間での調整はしっかりやっているのか。経済学は先生によってかなり違う。

（大阪市立大学）

G P 申請時に、ある先生は基礎演習で学生に発表させていなかったといった問題点が明らかになってきて、共通事項だけは決めて、あとはむしろ意図的に自由にしようということで。イノベティブはチーム編成で、4 チームをうまく違うテーマをやらせて発表させるという共通事項はできている。

（大阪市立大学）

G P の時に、全体のフレームワークについては共有出来たのではないかなと思う。完全に皆が共有できているかというと、ちょっとまあ、そこまではいっていないかもしれないが。

（新大学構想会議）

大変失礼なことをお聞きして恐縮ですが。昔は企業にも優秀なOBが沢山いたが、三商大で言う和一橋や神大に後れをとっているのでは。それは商学部と別れたことが原因なのか。採用側からみれば、格差がでてきているように思う。自己評価はどうですか。

（大阪市立大学）

神戸と一橋は、経営学部と別れているのは一緒であるが、学部の規模からみれば、一橋と神大には教員が倍くらいいるし、センター試験の影響で偏差値の輪切りになっている影響もある。古い教員の方にきくと、センター試験が導入されてから偏差値を強く意識するようになったということである。

（新大学構想会議）

マル経、近経の影響はあるのか。

（大阪市立大学）

あると思う。うちの学部は苦勞したと思う。時代が変わる中で、マル経が中心の学部だったので、今はほとんど事実上部分的にしか教えていないが、そこから脱皮していくのに苦勞していく中での一つの解が、ある程度異端的な方を抱えてということになった。大阪大学は理論重視の延長で基礎研究が強い。うちは周辺と中心ということから言うと、周辺の部分を強くすることで差異化を図るという意識がある。

（新大学構想会議）

マル経脱皮のまだ途上といえるかもしれない。ただ、脱皮すると経営に近づいてしまう。

（大阪市立大学）

かならずしもそうではないと思う。経済学はディシプリンとして、経営とはかなり違う。

（新大学構想会議）

学生からみれば、分野論的にみればという意味で。経済研究所はどういう存在だったのか。

（大阪市立大学）

経済学部と経済研究所とは繋がりがあった。研究所のほぼ半分の先生は、経済学部大学院に出向してもらっていた。ある時期までは、38名プラス10名の48名ぐらいの教員がいて、大学院生は少人数という、恵まれた大学院教育を行っていた時代があった。しかし、共同研究を行っていることはなかった。

（新大学構想会議）

その先生達は、経済学部には来ていないのか。

（大阪市立大学）

その頃の教員は今も一人は経済学部において、他は創造都市や商学部にいる。

（新大学構想会議）

教員数が少ないので、研究チームを組みにくいということはあるか。

（大阪市立大学）

人事計画でも議論があって、これまでは教育だけ担っていれば良かったが、研究は個人ベースではなく共同研究を行ってもらわなければ、これからの大学は生き残っていけないので、科目としてのバラエティは必要であるが、ただバラエティを並べるのではなくて、関連しているものを上手く並べるバラエティという人事戦略・構成案を持たなければならないというのが、学部内の委員会では話をしている。歴史からみれば、経済学部は個人商店の集まりなので、チームを作るのはなかなか難しいことではある。

（新大学構想会議）

創造都市研究科と研究テーマが重なっている。創造都市研究科は社会人大学院だが、経済学部も一部社会人の受け入れてやっている。単純に考えれば、一体化するのが普通ではないかと思う。MBAは普通、経営学部にありますよね。創造都市研究科は、どちらかというと、経済系の大学院ですね。創造都市論というのが根っ子にあってやってますよね。一方、こちらもガチガチの日本経済の学部をやっているのではなく、こちらも柔軟な経済学部ですね。だとすれば、経済学部の上に、社会人大学院として、創造都市研究科があるのが自然だと思うが、なぜそういう造りにならなかったのか。創造都市研究科は、塩沢先生など経済学部の先生が作ったのですよね。

（大阪市立大学）

当時はなかなか、商学部と経済学部がコンストラクティブに関わるという形では、やはり部局単位の割拠主義のようなものがあったのではないか。そういう意味での創造性を出すという方向性には議論はなかった。

（新大学構想会議）

経済学部から何人か出て行かれたのか。

（大阪市立大学）

経済学部からは塩沢先生だけである。組織的には関わっていない。

（新大学構想会議）

経営学部もそうなのか。

（大阪市立大学）

詳しくは商学部のヒアリング時に聞いてもらいたいが、うちとそんなに違いは無いと思う。

（新大学構想会議）

経済学研究所が無くなることについては、経済学部として議論があったのか。

（大阪市立大学）

部局を別にしていたので、同じ運命というようには考えていなかったのではないかな。

（新大学構想会議）

現状、共同研究の実績はあるのか。

（大阪市立大学）

ない。

（新大学構想会議）

それは何故ですか。

（大阪市立大学）

部局の割拠主義のようなものがあるのではないかな。個人的な繋がりはあっても、部局としての取組はない。

（新大学構想会議）

商学部との繋がりはどうか。

（大阪市立大学）

商学部との結びつきは強い。学生が商学部の授業を受講できるので、教育上の調整も行っているし、経営学研究科長と話をする機会は多い。

（新大学構想会議）

他の学部の話聞いていても「都市」というキーワードが出てくるが、その割には学部間でバラバラに取り組んでいる感がある。都市研究プラザでは、一時的な現象であって、後継者育成を含めて安定した組織ではないですねと申し上げたが、その辺はどうか。

（大阪市立大学）

経済としての都市の関わりは、何人かそれに関わっているのがいるので、経済全体のプログラムとするわけではない。リーディング大学院のような形で、労働経済、社会政策の分野にはもう少し積極的に関わろうというのが今の方向である。ただ、中で議論にもなったが、経済で都市を全部運営することは出来ないだろうと、経済というのは元々、都市や空間の無いところからはじまっているので、都市経済学というのは他大学でも都市工学出身の者が多く、元々経済学が弱かった部分なので、それを大看板にはできない。

（新大学構想会議）

文学部は無理して大看板にしている。

（大阪市立大学）

そこまでの大看板にするのは反対だということ。プラザは、都市というのは色んな学問があるので、固定的組織よりもプロジェクトやプログラムでかけていくというのは戦略だと思うが、色んな現象が都市において生じているが、都市においてというだけで、都市が何を生み出すのか、何が問題となるのかという都市論の議論がもっと必要だと考える。

（新大学構想会議）

都市が市立大学の横串の看板になるというのは、ストーリーとしては面白いが、一過性の可能性がある。縦の論理は、常に経済における都市の分野。縦の論理があって、人でくっついて、G Pの金でくっついて、これが抜けたらスーッと抜ける感じ。そこは、本気で都市を長期間にわたって看板にする気があるのかですね。

（新大学構想会議）

都市学が看板になり得るのか。

（大阪市立大学）

都市学は昔もある学会で議論になったが、学自体にはならない。いろんな分野からやるから都市研究、ゆえに英語でも urban studies となっている。

（大阪市立大学）

地域研究もディシプリンとしてはあり得ないと思う。

（新大学構想会議）

大阪市、大阪府だから都市だというのは一見分かりやすいが、しっかりした公立大学と

して、全国の中で断トツのものを作るときに、そんなものに依拠しないで、別の切り口の方がしっかりするのではないかと思う。

（大阪市立大学）

プロジェクトや教育プログラムでどう仕掛けるのかと個人的には思う。

（大阪市立大学）

経済学研究科としては、都市という一過性で考えるよりは、大阪の今のいかんともしがたい現状に対して何とか貢献したい、という思いを持っている。今の人材の強みから言えば社会問題だろう。社会政策や労働問題のあたりが中心になって、そこに関する研究のある種のセンターとして、都市という大阪が抱える社会問題を何とかしたいという方向で考えていきたい。

（新大学構想会議）

そういう意味では実学研究を否定されている。実学的な基礎の教育は、社会との関わりは実学的になるわけだから、あえて否定しないで、大学の研究のテーマなり成果とすれば、実学的にしないと、社会的アピールにならない。そういうことが出てくれば、この先生は素晴らしいことをやっておられて、大阪の改革につながるというようになる。

（大阪市立大学）

実学と実践的というのは違って、プラティカルというのは実践的という意味で概念として区別している。

（新大学構想会議）

言葉の概念規定は難しいのだが、大阪のシンクタンクになるというのならば、実学的というものを出されたらよいのではないか。

（大阪市立大学）

商科大学時代にいくつかの学科に分けた時代があった。それはすぐに潰えたが。市政科というのがあって、行政にかかわるような、大局的にみるようなことを当時考えたのだと思う。市政科みたいなものを、経済学部は体現していけばよいのではないか。

（新大学構想会議）

そんなに綺麗に分けられるものなんではないかな。経済の純理論のようなものがあって、現場プラティカルがあるという話ではないと思う。逆に言えば、都市の話を縦割りではどうしようもないから、一つの学問体系にすることも、社会科学についてはそのようなものではないか。社会科学の準理論というのは、数学的、歴史観の遊びですよ。大阪であれば、都市工学と地域社会とトータルで取り組む学問があってもよいのでは。ディシプリンといって自分の習ってきた学問にこだわっているところに特色が出せないところがあるのではないか。空手形では、社会は解明できない。やはり、先輩のフレームワークをいっぱ

いいいただくしかない。それは現実を手術するときのハサミであって。

（大阪市立大学）

先生がおっしゃったことを実現しようとするならば、大学内の学部を超えた何らかの。

（新大学構想会議）

都市科学部があったっていいんですよね。あっちが工学部が過剰ならば、そっくりいただいて、プラザを加えて一つにして、本気になって教育の一環としてやる。そして、はじめて光るんだと思う。都立大のように、都市教養と言われると、何をやっているのか分からない。要するに、ディシプリンをどうやって風呂敷に包むかという時に、都市教養とか国際教養とか、要するによくわからない。しかし、都市科学はある程度ディシプリンである。自然を知らない社会学者が都市を語っているから、都市災害が解けない。

（大阪市立大学）

文系の研究科長で話し合っている時に、ディシプリンを大切にすることと、プロジェクトベースで安定的な共同研究を組めるような仕掛けをつくることが考えられる。

（新大学構想会議）

旧帝大やこちらは、伝統的な学部というものを、学のディシプリンとして守っていますよね。以前いた大学では、何百年のディシプリンを壊すことはあり得ないが、新しい分野の学問をつくることは必要だろうということで新しい学部はつくったが、全部縦割りは残っている。全部残すのは行き過ぎだが、時代時代にあった学問体系にトライする価値はあると思う。

（新大学構想会議）

資本主義そのものが曲がり角にある中で、新しい現象が起こってきていることを、これで解明できるかということ出来ないと思う。逆に、大阪に手近にあることに、先生方と府・市が組めば治れますよね。それが学問に変わっていくのではないか。

（新大学構想会議）

後で学部になるということですね。

（新大学構想会議）

そういうことです。そういうことをする方が、立派なことではないかと思う。

（新大学構想会議）

創造都市のように、欧米から導入しても、使えたら磨けばいいんですよね。それが良いとか悪いとかではなくて、ただ現実問題として、大阪の凹み問題というのは、国土問題だし、世界経済問題だし、東京問題だし。それで、どっかの理論で綺麗に上がるものではない。必死になって取り組むと、一つの体系が出てくると思うが。

（新大学構想会議）

行政側がフレームワークを用意して、しかし、行政側からすれば市大にこだわる理由はない。地元でやっているのと矮小化してしまう。

（新大学構想会議）

プロジェクトベースというのは一過性である。2，3年単位。

（大阪市立大学）

アメリカの大学をみると、本籍はディシプリンなんだけど、何とかプロジェクト兼任のような形である。仕事の分け方である。ここでは、各先生方の上積みになるので、やる気が損なわれる。上手く兼ねれるシステムを考えることができれば、この大学には色んな先生がいるので、コンパクトな対面接触を活かせる大学になると個人的には思う。上手くシナジーを生むようにしないと。

（新大学構想会議）

それは全体のリーダーの問題である。学部の中から他学部を吸収して新しいものをつくるということは、なかなかできない。上の方から提案してもらった方がよい。

（新大学構想会議）

先ほどの市政学ではないが、大学のシニアの方々と役所で色々議論して、向こう20年の方向、例えば、公衆衛生とか、ビッグデータの研究所を一緒にやろうとかいった議論ができる場があればよいと思う。今は、スター教授の誕生に依存している。

（新大学構想会議）

旧帝大は学部名称は変わっていない。一方、立命館のように新しい学部がたくさんできている。多少冒険するというのが、公立大学の一番面白いところだと思う。しかし、どんでん返しすると歴史的責任を果たせない。受験生と就職の入口と出口の選択の問題があるので、衣装を変えたからと言って、すぐに行けるものでもない。かといって、元のディシプリンに戻るのには、国立を超えることはできない。

（新大学構想会議）

学部単位で考えていると出来ない話である。

（新大学構想会議）

余程のリーダー、ノーベル賞クラスが出てきて、俺がやると言えば別だけれど、一回壁ができると、官僚と同じですね。新しいものは出て来ない。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

以上